

しょうがくせい 小学生のみなさんへ

しんがた 新型 ^{りゅうこう} コロナウイルスの ^{うち} 流行で、お家 ^{おお} にいることが多くなっていることとおもいます。

こんな ^{とき} 時は、お家 ^{ほん} で本 ^よ を読んでみませんか。本は、たいくつしているあなたを、いろいろな ^{ところ} 所へ連れていってくれたり、あなたが知らない ^{こと} おもしろい事 ^{やく} やふし ^た ぎな事、役 ^{おし} に立つ事を教えてくれたりします。

このプリントに、市立図書館 ^{しりつとしょかん} がおすすめする本 ^{しょうかい} を紹介しています。学校の図書館 ^{がっこう} で探 ^{さが} して読んでみてください。

保護者の方へ

自宅で読書を楽しんでもらうために、市立図書館でおすすめする本のリストを作成しました。

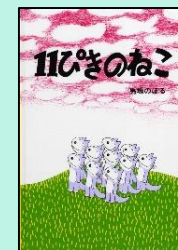
読書は楽しいことですが、子どもが自分で読むことができるようになるには、大人の手助けが必要です。低学年のお子さん、自分で読むことが苦手なお子さんには、ぜひ読んであげてください。

読書は、心を豊かにするだけでなく、想像力を育て、学習の基礎となる読解力も育てます。この機会に楽しい読書を習慣にしませんか。

「11ぴきのねこ」

いつもおなかがペコペコな11ぴきのねこは、おなかいっぱいたべるため、かいぶつみたいな おおきな さかなとたいけつします。4かい たたかって やつとしょうりしたねこたちは、みんなにみせるため、さかなを たべずに つれてかえろうとしますが……。

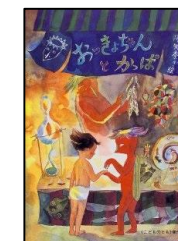
馬場 のぼる／著 こぐま社



「おっきょちゃんとかっぱ」

あるなつの日、“おっきょちゃん”は、川であった、カッパの“ガータロ”につれられて、かっぱのくに行きました。それからずっとかっぱのくで、カッパの子としてくらしていた“おっきょちゃん”ですが、おかあさんのところにかえりたくてしまいます。

長谷川 摂子／文 ふりやなな／絵 福音館書店



「おべんともって」

きもちのいいあきの日、くまのこがおとうさんにおべんとうをとどけるためあるいと、いろんなどうぶつたちとあいます。そのあと、おとうさんとおべんとうをたべたくまのこは、ひとりではやしをたんけんします。さあ、なにかおこるのでしょうか？あきのふうけいがすてきなえほんです。

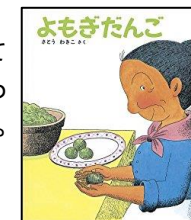
森山 京／文 片山 健／絵 偕成社



「よもぎだんご」

よもぎは、みちばたや あきちなど、みぢかなところに生えています。はるは よもぎのあたらしい葉（は）がでてくるきせつです。あたらしい葉はやわらかくておいしいので、ばばあちゃん は よもぎだんごをつくることにしました。この本をよめば、あなたもおいしい よもぎだんごを作ることができますよ！

さとう わきこ／さく 福音館書店



「めっきらもっきら どおん どん」

なつ休み、かんだが、じんじゃで「♪めっきらもっきらどおんどん」とうたったら、へんてこなようかいたちがいる、よるのせかいへ来てしまいました。さあ、かんだは ようかいたちと どんなことをしてあそぶのでしょうか？

長谷川 摂子／作 ふりやな／画 福音館書店



「くんちゃんのはじめてのがっこう」

こぐまのくんちゃんはきょうから1年生です。きょうしつでは、せんせいにさされたじょうきゅうせいがこくばんに じ をかいたり、けいさんをしています。どれもできないくんちゃんからはからだを小さくして、せんせいにさされないようにしますが、とうとうせんせいによばれて・・・。

ドロシー マリノ／さく
まさき るりこ／やく ペンギン社



「おなら」

秋は「みのりの秋」といって、おいしくだものなどがたくさんとれるきせつです。でも、おいもやくりを食べるとおならをしたくなりませんか？この本では、どうしておならがでるのかや、くさいおならとくさくないおならのちがいなど、へえ～！と思うことがたくさん書いてありますよ。

長 新太／作 福音館書店



「ともだち」

にゆうがくしたり、クラスがかわったりすると、「ともだち」についてかんがえることもおおくなりますよね。この本では詩人（しじん・しをかく人）のたにかわさんが「ともだち」や「けんか」について、かんたんな詩（し）でおしえてくれます。みなさんもすてきな友だちができるといですね。

谷川 俊太郎／文 和田 誠／絵 玉川大学出版部



「トマトさん」

あついあついなつの日、トマトさんはかなしそうです。ミニトマトたちが、つめたいおがわにとびこむのがうらやましくてたまらないのです。大きくせいちょうしすぎて、じぶんではうごけないトマトさんは、はたして つめたい川でおよぐことができるのでしょうか？

田中 清代／さく 福音館書店



「1ねん1くみの1にち」

ある学こうの1ねん1くみの1にちが、しゃしんでしょかいされます。じゅぎょうではなにをべんきょうしているのかな？きゅうしょくはどんなこんだてかな？きょうしつで、みんなどんなおはなしをしているのかな？じぶんのクラスとくらべながら、みてみるとおもしろいですよ。

川島 敏生／写真 文 アリス館



「おばけでんしゃ」

“おばけでんしゃ”は、おばけをのせて走るでんしゃです。「ようかいえき」をしゅっぱつしたでんしゃのなかは、いろんなおばけでいっぱい。でも、しゅうてんの「にんげんえき」についたとき、おばけたちはどうなっているのでしょうか？えをじっくりみて、たのしんでください。



内田 麟太郎／文 西村 繁男／絵 童心社

「どろぼうがっこう」

「どろぼうがっこう」とは、「いっしょうけんめい せいだして、はやく いちばん わるいどろぼうになる」ためにべんきょうをするがっこうです。よるの10じ、こうちようとせいとたちは、えんそくにでかけます。おかねもちのいえに どろぼうに はいるためです。さあ、かれらのえんそくはうまくいったのでしょうか？

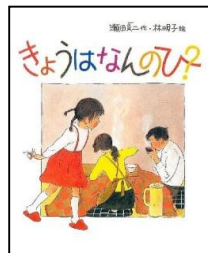
かこ さとし／絵と文 信成社



「きょうはなんのひ？」

あさ、まみこはがっこうに行くまえにお母さんにてがみのばしょを教えます。お母さんがてがみを見つけると、つぎのてがみのばしょがかいてあって、つぎつぎにお母さんはいえじゅう てがみをさがすことになりました。まみこはなんでそんなことをしたのかな？

瀬田 貞二／作 林 明子／絵 福音館書店



「すばらしいとき」

アメリカ人のかぞくが、小さなしまでもすごすひとなつをえがいたえほんです。しぜんのうつくしさやきびしさが、すてきなぶんしょうでかかれています。おとなの人も、なつ休みをおもいだして、たのしめる本です。

ロバート・マックロスキー／ぶんえ わたなべ しげお／やく 福音館書店



「およく」

人のからだはどうして水にうくの？どうやって いきをしているの？この本にはそのナゾから、およぎかたまでがくわしくかかれています。しゅじんこうは およげない男の子。男の子をおうえんしながら、およくことについてかんがえてみませんか？水がこわい人は、こわくなくなるかもしれませんよ。

なかの ひろたか／作 福音館書店



「みずまき」

あついなつの日、女の子はにわに水まきをします。にわにすんでいる とりやムシやどうぶつたちは水をあびてどんな はんのうをするのかな？本をみてたしかめてくださいね。このはくりょくのあるえをみると、おもいきりおえかきをしたくなりますよ。

木葉井 悦子／作 絵 講談社



「しゃっくりがいこつ」

しゃっくりがでたら、みんなはどうしますか？はなをつまんだり、お水をのんだりしますよね？このがいこつも、いろんなことをためしますが、それでもしゃっくりがとまりません。でもさいごには、ともだちのオバケのアドバイスで、しゃっくりがとまります。さあどうやってとめたのでしょうか？

マージェリー・カイラー／作 S.D. シンドラー／絵 黒宮 純子／訳 セーラー出版



「なつのいちにち」

あついなつの日、男の子はひとりでクワガタとりにでかけます。田んぼや、じんじゃや、川をぬけて、森にやってきました。そこでクワガタを見つけますが、手がとどきません。さあどうするのでしょうか？男の子のドキドキする気持ちがよくつたわってくる本です。

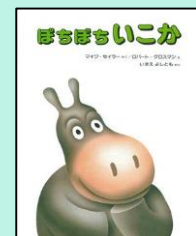
はた こうしろう／作 偕成社



「ぼちぼちいこか」

しん学きはべんきょうやスポーツなど、あたらしいことにチャレンジするじきですね。カバ君もしょうぼうしやバレリーナなど いろんなしごとにチャレンジします。体がおもすぎたり、力がつよすぎたりして、なかなかうまくはいかないけど「ぼちぼちいこか」とあかるいカバ君なのでした。

マイク=セイラー／さく ロバート=グロスマン／えいまえ よしとも／やく 偕成社



「はちうえは ぼくにまかせて」

なつやすみ、りょこうのよていがけないトミーは、りょこうにでかけるきんじょの人たちの、はちうえをあずかることにしました。のびすぎたえだを切ったりして、トミーははちうえをりっぱにそだてあげます。

ジーン ジオン／さく マーガレット ブロイ グレアム／え もり ひさし／やく ペンギン社



「もりのえほん」

あついなつでも、もりはひんやりとすずしいものです。でも、このえほんにでてくるもりは すずしいだけじゃありません。もりのなかには、たくさんのどうぶつたちがかくれているのです。みんなは、なんびきのどうぶつたちをみつけれられるかな？

安野 光雅／さく 福音館書店



「やまなしもぎ」

むかしあるところに、びょうきのお母さんと3人のきょうだいがいました。お母さんがたべたいという「やまなし」をとるため、いちろうとじろうは山おくへいきますが“ぬまのぬし”にたべられてしまいます。のこったさぶろうは、やまなしをとってかえられるのでしょうか？

平野 直／再話 太田 大八／画 福音館書店



「ウエズレーの国（くに）」

ウエズレーは、ほかの子とはちがったおとこの子です。夏休みのじゅうけんきゅうで「じぶんだけのさくもつをそだてて、じぶんだけのぶんめいをつくるんだ！」ときめます。ウエズレーのそだてるさくもつは、みはおいしくて、くきはようふくになりました。そのうちウエズレーはじぶんの国（ウエズランド）をつくりだします。

ポール フライシュマン／作 ケビン ホークス／絵 千葉 茂樹／訳 あすなろ書房



「だごだご ころころ」

ころがる「だご」をおいかけて、おばあさんがついたところはおにのすみか。おには「だご」を気にいって、おばあさんをいえにかえてくれません。あかトンボの力をかりて、おばあさんはいえにかえることができるのでしょうか？

石黒 漢子／再話 梶山 俊夫／再話 絵 福音館書店



「かようびのよる」

かようびのよる8じころ、カエルたちがはっぱにのってそらをとびはじめます。むかうところは、にんげんたちのすむまち。カエルたちは すきなようにとびまわりますが、おひさまがのぼると・・・えをじっくりみてたのしむ絵本です。

デヴィッド ウィーズナー／作
絵 当麻 ゆか／訳 徳間書店



「つるにようぼう」

けがしたツルのてあてをした、「よへい」さんのもとに、きれいなおんなのひとがたずねてきました。ふたりは ふうふうになります、とてもびんぼうです。おんなはきれいなおりものをおり、おかねをかせぎますが、おるたびにどんどん やつれていきます・・・おとなのひとがよんでも、じーんとくる むかしばなしのえほんです。

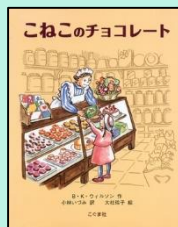
矢川 澄子／再話 赤羽 末吉／画 福音館書店



「こねこのチョコレート」

ジェニーは、おとうとのクリストファーのたんじょうプレゼントに、こねこのチョコレートをえらびました。チョコレートは あすの たんじょうびかまで ジェニーの たんすにかくしています。でもそのよる、ジェニーはチョコレートがたべたくて ねむれなくなってしまいました。

B.K.ウィルソン／作 小林 いづみ／訳 大社 玲子／絵 こぐま社



「はつてんじん」落語絵本

しんねんに、てんまんぐうにおまいりに行くことを「はつてんじん」といいます。お父さんと金坊（きんぼう）は「はつてんじん」に行くのですが、金坊が、やたいの食べ物やおもちやをほしがります。お父さんはダメだといいますが、たこをかってしまいます。お父さんと金坊のかけあいがたのしいおはなしです。

川端 誠／[作] クレヨンハウス

